



Rotary

東京八王子西
ロータリークラブ



Report

2018～2019 No.9 平成30年12月14日

●会長標語

会長 峰尾 孚

温故知新が変化を生む

今週のプログラム

- 第2535回(12/14)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*イニシエーションスピーチ

- 小林秀司会員
- 佐藤永一会員

次のプログラム

- 第2536回(12/21)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*年忘れ家族例会(夜間)

今回このような卓話の機会をいただき誠にありがとうございます。今日は弊社の概要をご説明するとともに、高尾山地域の現状と課題をお話し申し上げたいと思います。

弊社の設立は大正10年の9月で、その後約5年間の工事期間を経て昭和2年1月にケーブルカーの営業を開始しました。第2次世界大戦中は企業整備令により営業を休止し、昭和24年に営業を再開しました。また、観光リフトは昭和39年の東京オリンピックの開会式の日営業を開始し、現在は、鉄道事業(ケーブルカー)、索道事業(観光リフト)のほか、食堂業(蕎麦処・売店・展望レストラン)、遊園地業(さる園・野草園)、不動産業(不動産賃貸)、保険代理業(損

設立の経緯



船江栄次会員

会員卓話「事業環境の変化と高尾山地域経済の活性化について」

2018年11月30日(金)

害保険代理店)の各事業を営んでおります。弊社は、大正9年当時の大本山高尾山薬王院武藤貫首の「高尾山に登山電車を敷設し来山する信徒の足の便を図れば、さらに多くの人々に御仏の教えを広めることができるであろう。また、来山者が多くなれば浅川村も経済的に潤うであろう。」との発案がきっかけとなって設立されましたので、以来、大本山高尾山薬王院のお膝下で地元企業、商店の皆様と協調して事業を展開し高尾山地域の発展に努めております。

台風24号の被害状況

本年9月30日から10月1日にかけて日本列島を縦断した台風24号によって、弊社は大きな被害を受けました。画像のとおり、ケーブルカー沿線には檜の太木が倒れ、リフトは縦の倒木によって脱索し搬送器も壊れました。経験上、台風規模や進路である程度施設設備への影響は想定できるのですが、今回はそれを上回る被害で、山上居住者の生活路線でもあるケーブルカーは1日運休、リフトの復旧には5日間を要しました。



リフト沿線



ケーブルカー沿線

高尾山地域では、薬王院、弊社、商店会、料飲組合及び町会が各々の組織で防災訓練を実施していますが、山頂のビジターセンターから麓の京王高尾山口駅までが合同で防災訓練を行うことはありません。年間300万人もの来山者が訪れる観光地としては、お客様の安全を一層強化するためにも、消防及び警察のご指導をいただきながら大規模な防災訓練を実施することが急務

事業環境の変化

であると考えております。

平成19年のミシユランガイドで三ツ星の評価を得て認知度が高まったことと健康登山ブームが契機となり、翌20年度から高尾山の来山者は急増しました。その裏付けとして申し上げますと、それまでの弊社ケーブルカー及び観光リフトの輸送人員は年間130万人前後でしたが、20年度は173万人、22年度は201万人と増加し、その後は毎年度210万人前後で推移してきました。しかしながら、今年度弊社の第2四半期累計は予想に反し対前年度11万人減少という結果でしたので、この傾向を従来のように天候によるものと楽観視せず、細かく分析する必要があると考えております。特に天候が安定していた月の減少が大きく、気温35℃を超える酷暑が今後も常態化するとなれば、来山者の減少傾向は続きます。また、この傾向は各商店の収益の状況とも連動していると思われるため、先日地元商店会及び料飲組合の役員にもこれらの情報を提供し、一緒に今後の

集客策を考えていきたいと提案いたしました。また、昨年3月に京王電鉄のグループ企業となったことも弊社にとって大きな事業環境の変化です。京王電鉄とは以前から資本関係がありましたが、今回子会社になったことにより大きな力を得たと思っております。高尾山温泉、高尾599ミュージアムなどの関連施設との協調を通じて、高尾山のさまざまな情報や魅力を発信してまいります。

来山の状況と傾向

いくつかの調査結果を参考にして申し上げますと、年齢層別の傾向としては、20～30代前半のいわゆるヤング層は友人とグループでハード過ぎないハイキングを楽しみ、飲食とカジュアルな企画に興味をもっています。30代後半～50代後半のミドル層は女性が増加、男性が減少しており、女性にはキャンペーンに意欲的です。50代後半以上のシニア層は健康登山、山頂で富士山を見るといった具体的な目的意識をもって来山しており、リゾート利用が多くなっています。また、来山の頻度は全体としては横ばいですが、男性の30代に減少傾向がみられ、初

来山が全体の20%、10回以上のハードリピーターは45%、平均回数6回という調査結果も出ています。

今後の課題

多くのお客様に継続して高尾山にお越しいただくためには、これまでの受動的な受け入れ体質を能動的な体質へと転換させ、豊かで貴重な自然の保護に努めながら魅力ある施策展開していく必要があります。これは弊社の課題であると同時に地元企業、商店の課題でもあると思います。来山者の減少傾向に危機感を持ち、その危機感を共有して、活力のある地域となってお客様を迎える体制を再構築し、情報発信を強化していく必要があります。現在高尾山口駅前の整備、中心市街地活性化計画、産業交流拠点の整備等も進んでおりますので、八王子市、八王子商工会議所、八王子観光コンベンション協会とも連携を密にして、インバウンド対策施策である『東京都観光産業振興実行プラン2018』を踏まえながら、自然、農林水産、歴史文化といった観光資源を広くアピールして観光客の増加に努めてまいりたいと思います。

例会報告

第2533回 ● 2018・11・30 (金)

◆司会 関和之(会場監督補佐)

◆開会点鐘 峰尾孚会長

◆Rソング 我らの生業

◆食事と交歓 和食

◆出席報告 ニコニコ発表



出席報告・ニコニコ発表
山田和夫出席財務副委員長
財務副委員長

会員113名中74名出席。出席率71・15%。前々回11月12日IMの出席率54・81%をクラブの会費を使つての実施の為100%に修正します。

◆会長挨拶 峰尾 孚会長



会長挨拶／
峰尾 孚会長

*今年11月は木枯らし1号が吹かいます。冬に入りそうです。

*甲州街道の銀杏の葉が、日当たりによって緑だったり、黄色だったりしてとてもきれいです。

*高尾山のもみじの枝先の葉が黒くなっていました。台風の影響がここまで及んでいるようで驚きました。

*理事会、全員協議会で推薦されました三浦会員が、今月

21日にガバナーノミニデーデジネットに決定したとガバナー事務所より連絡がありました。皆様ご協力のほどよろしくお願いいたします。



三浦眞一
ガバナーノミニデーデジネット
ご挨拶

◆幹事報告 小沢孝志幹事



幹事報告／
小沢孝志幹事

*12/7例会後に年次総会がありますので出席下さいませ。よろしくお願いいたします。

◆会員増強賞贈呈

檜崎 博会員

橋本 孝会員

池田 勝会員

◆スピーカー紹介

石井昭久(プログラム委員)

スピーカー：船江栄次(会員)

テーマ：「事業環境の変化と高尾山地域経済の活性化について」

◆閉会点鐘 峰尾 孚会長

第二回 峰尾年度 親睦ゴルフコンペ

11月22日、八王子カントリークラブにて第二回峰尾年度親睦ゴルフコンペが開催されました。

秋涼爽快のゴルフ日和の中優勝は立花会員でした。おめでとうございます。主な順位は左記の通りです。パーティーは中町鶴屋ビルの「秋吉」でおこなわれ親睦を深めることができました。親睦委員会の皆様お疲れ様でした。

優勝	立花 探
2位	小松政人
3位	伊藤則久
4位	原啓一郎
5位	小沢孝志
6位	関 和之
7位	福田邦人
8位	岡本信之
9位	石森浩元
10位	三村裕介



卓話「ドイツでの358日間とこれから」

2018年12月7日（金）

青少年交換派遣帰国生
森田夏奈 さん

職業体験について

ドイツでは、学校や州にもよりますが、大体、ギムナジウムの9年生から10年生、日本でいうと中学生の3年生から高校1年生の時、授業の一環で、職業体験、インターシップのようなものを、それぞれ体験します。私は、その時ちょうどギムナジウムの10年生の学年にいたので、職業体験をすることができました。私はかねてより希望していた建築事務所で職業体験をしました。誰でも、希望する通りの場所で、職業体験ができるとは限らないのですが、私はホストファミリーの助けを借りて、この建築事務所で職業体験をするチャンス을いただきました。ここでは、例えば図案の書き方を習ったり、これは最初の課題で、

これは最後にやった図案作成の課題です。この3週間の職業体験を通して、ドイツ人がどのように働いているのかを間近に見たり、建築という分野でどのように働いているのか、ということを見ることができたのは、もちろんのことです。しかしそれよりも1番大きな収穫は、仕事の選り方、進路選択について、色々なやり方があるということを感じたことだと思います。ドイツですと、高校を卒業してからすぐに大学に進むという人はあまり多くなく、例えば職業体験をさせていただいたこの建築事務所のチーフの方は、高校を卒業してすぐ、自分が建築を本当に学びたいのか自信がなかったそうです。そこで、何をしたのかというと、実際に建築事務所でアシスタントのような立場で働いてみて、やはりこの分野で働きたいという確信を持つてから、大学に進んだそうです。日本人もドイツ人も、几帳面な性格と、似ているところが言われると思いますが、その几帳面さ、慎重さの現れ方が違うと感じました。日本だと、例えば、間違った方に進まないように、ゆつくり、慎重に考えて進んでいくことが多いような気がします。しかし、私がこ

の職業体験を通して垣間見たドイツの慎重さはまた違ったものでした。仕事の選り方、進路の選り方に関してだけ言えば、ドイツ人は色々なものを試してみたり、自分の好みや適性をじっくり吟味してから、職業や進路を選んでいると思いました。そのようなやり方があると知ることができたのは、この3週間の中で、一番大きな収穫でした。次に転校についてです。私はゴスラーという小さな町にいたのですが、そこには私も含めてロータリークラブから4人の留学生がいました。私と3人の留学生、あわせて4人は、はじめギムナジウムの10年生にいました。10年生というのは、先ほども少しふれたように、高校1年生、大体15・6歳くらいの学年の年齢の子たちです。しかし、私たち留学生、全部で4人は、17歳、18歳だったので、クラスメートは大体2つ年下でした。その中で、みんな今一つ友達関係とかがうまくいかないことが多くて、ホストクラブの留学生担当の方と、学年を2つあげてもらえないか、学校の中で学年だけ変えてもらえないか、交渉しました。そうすると、ロータリークラブ側の判断なのか、学校側の判断なのか、私た

ちはよくわからないのですけれど、学年を変えるより、学校を変えた方が早いといわれ、近くにあった職業学校みたいな学校に12年生に編入されることになりました。転校の話がまとまったのが、4月でした。4月というと、帰国まで後3か月で、通えるのも後3か月という時期だったのです。そして、転校するかどうかは、自分で選んでいいよと言われ、私以外の3人は何も考えることなく転校するといったのですが、私は、転校するべきかすごく悩みました。というのも、新しい学校に移っても、あと3ヶ月しか通えないですし、初めの学校でうまくいかなかったことから逃げていくような、敗北感、罪悪感をものすごく大きく感じていたからです。色々悩んだ末に、3か月だけでも新しい環境にチャレンジしてみようと思い、職業学校の12年生に転校することを決めました。私が最後に通っていた学校のクラスメートは大体22人くらいです。そして、転校を通して、はじめは先ほども申し上げた通り、敗北感、逃げていくような気持ちが大きかったのですが、新しい学校では、自分が思っていたよりも、友達関係とかいろいろなことがうまくいきは

じめました。私が、態度を変えたとか、性格がガラッと変わったとか、そういうことはなくて、初めに通っていた学校と、2つ目の学校とでやっていることはだいたい同じようなことなのですが、やはり、反応が違う、結果が違う、ということを実感しました。それを通して私が学んだのは、環境を変えてみて頑張るということもやつてもいいんだなと思いました。この職業体験と転校、全然違うようなことに見えるこの2つの経験を通して、私の学んだことは環境を変えろということとです。例えば職業体験で学んだように、ドイツ人が職業選択や進路選択をするときには、色々なものを試してみたり、決めるということが多いです。また、私も転校を通して、環境を変えて頑張ってみる、というプロセスを経験しました。環境を変えろというのは、意外と勇気のいることで、最初にいた環境から逃げていくような引け目を感じることでもそうですし、このままここで頑張った方がいいのではないかと、それこそ、石の上にも3年ということわざのように、ずっと同じ場所で踏ん張り続けていることも大事なんです。環境を変えて頑張るとか、環境を変えて

新しいものを見ることも大切なことと学びました。2つ目が、失敗を受け入れること、寛容になることなんですが、これは、環境を変える時に非常に大事なものと学びました。実際1個目の学校で起こったことがすべて失敗とは言いませんが、うまくいかなかったことは事実です。しかし、それを受け入れたからこそ、学校を変えることも決められたわけですし、自分の失敗に対して寛容にならないければ、その場所ですと、うまくいくかわからないまま頑張っていたことになると思います。失敗を受け入れること、ということも環境を変えるということに対して、非常に大事なプロセスなんだなとわかりました。

マイノリティとは

私は17年間ずっと日本で生きてきて、マイノリティとか、少数派に属したことは、全くと言ってあげられません。しかし、ドイツに行ってみて、もちろん私は外国人でした。ドイツは、日本に比べて移民や難民が多いので、その分色々なルーツを持った人々がいることは事実です。しかし、それは大都市に限った話で、私の住んでいたゴスラーという小さな町では、やはり私は明らかに外国人という状態でした。そして、色々な国から集まった留学生た

ちと集まったときも、私はやはり少数派でした。1800地区の留学生はたくさんいて、40人近く色々な国から集まっていたのですけれども、その半数以上20人ちよとぐらいいが、中南米、ブラジルとかメキシコとかからの留学生たちでした。やはりそうすると、自分の話しやすい言語ですとか、文化とか好みとか、そういう面でグループに分かれてしまっているのですが、そういうときもやはり私は少数派でした。そして初めて自分が少数派の立場になつて気づいたことは、少数派だからつらいのではなく、色々な物事の仕組みが、多数派の人たちに沿って作られているから、少数派の人たちがつらく感じるということがあるということです。例えば3週間のユーロツアーがありまして、ユーロツアーでたくさんの方を留学生とまわるのですが、その時の色々なスケジュールは、多数派の人たちの好み、南米の人たちや、多くのアメリカからの留学生たちの好みや希望に沿って作られていると感じました。その他にも、週末にみんなが集まって、オリエンテーションなどがあつたとき、やはりそのプログラムを、みんなの好みに沿って作られていて、多数派の人の好みに沿って作られています。そんな中で私を感じたことは、少数派であるからつらいのではなく、多数派の

人達に沿って作られているシステムが、少数派の人たちにとつてつらいということです。そして、初めて自分が少数派になることによつて、他の場面で他の状況で仕事をされている人たちの気持ちを細かく想像することができるようになりました。ドイツにいる難民の方たちの気持ちがよく理解できるとはとうてい言えません。なぜなら、ドイツに行った経緯も、ドイツにいる期間も、私とは全く違うからです。しかし、彼らを感じている違和感や生きづらさということは、少し明快度をあげて想像できるようになると思います。私が学校で仲良くなつたアフガニスタンからの難民の子も健康被害の面のほかたくさん大変なことがあるように、それは私には100%くつきり想像できることではないと思います。しかし、少し奥深くまで興行きをもつて想像できるようになりました。それは、初めて自分自身が少数派になったからです。

小さな親善大使としての役割について

国際ロータリーの青少年交換で私たちは留学生ではなく、小さな親善大使として、それぞれの国に派遣されます。その中で自分ができること、やらなければいけないことのギャップに苦しんだりする同期や、自分自身も

そうなんですけれど、そういう悩みがあったりしました。しかしその中で、私が自信をもつてこれをやつてきたと言えることは、世界とのつながりを作つたということです。ドイツに行ったので、ドイツを中心とした世界と言い換えてもいいかもしれません。もちろんホストファミリーやクラスメート等ドイツで出会つた色々な人たちは、私の話した色々なことを覚えていてくれました。それは帰国直前に気づいたことなんですけれど、もうすぐ日本に帰国するので、最後に会つておこうというとき「そういえば夏奈、昔こういうことを話してくれたよね」ということを覚えてくれている人がドイツにたくさんいました。つまり、それは私が日本のことを少し伝えただけでなく、彼らの心の中に私の存在が今でも残っているということだと思います。それはこれから私が世界と大きくつながっていくとき、すごく大きな基礎になると思います。そして、ロータリーを通してたくさん色々な国からのインバウンズにも出会いました。彼らの中に、彼らの心の中に私がまだいると自信を持って言えます。7月頃に広島の方で大きな洪水があつたことを皆さん覚えていらっしゃると思います。その時にその洪水のニュースが、世界中の色々な国でニュースになつたよう

です。そうすると色々な国の、もうバラバラになつてしまっている、色々な国の世界に散らばっている友達たちから、「夏奈や家族は無事、大丈夫？」という連絡がたくさん入つてきたのです。それを見て私は、みんなの心の中にまだいる、世界と私はつながっていると実感することができました。そして私が発信できたこと、これはいくつかあります。私の同期で例えばブラジルに派遣されていた子は、けっこう大きなプロジェクトを自分でやっていて、私はそういうことをあまりやっていなかったのです。すごく劣等感を感じていた時期もありました。しかし、先ほども述べたように、私が発信できたこともあります。それこそ私が話した内容を覚えていてくれる人はたくさんいましたし、クリスマスの会議には、ドイツのある人がこう言ってくれました。「ドイツ人だったら、そんなことは疑問に普通思わないよ。そんなことを質問してくれるなんて面白かった。ありがとう。」と言ってくれたのです。それを聞いて私は、ただ一方的に伝える手段よりも、例えばドイツについて質問する、相手の意見を聞いてみる、そういう質問の形式でも自分の観点や、切り口で、日本のことを少しずつ発信していけると感じました。このように私が発信できた

ことを、少しでも心の中に持つて
くれている人が今世界にたくさ
んいるということが、私の今の誇
りです。

5か月間で気づいたこと

今までドイツで発見し、考え
感じたことをお話ししました。
最後にドイツから日本に帰つて
きて、5か月たった今、自分がど
う変わったのかという話を新
たに発見したので、それをお話
します。この青少年交換派遣の
プログラムは、語学留学ではない
ので、現地の言語を勉強するこ
ういうことは、必要最低限、当
たり前のこと、ととらえられていま
す。私もその考えには賛成なの
で、あえて言語のことについて
は、卓話やスピーチであまり話
されないことが多いように思
います。しかし、私は1年間ドイツ
語と真剣に向かい続けて、感じ
たことがあるのでそれをお話
します。ドイツに派遣される前、
3か月ぐらいドイツ語を勉強
し、準備してから行ったのです
が、それはほぼコミュニケーション
には使えないような状況でし
た。ちょうどだけ文法を学んだだ
けでした。そんな中でドイツで必
死に周りにあふれているドイツ
語と向き合い続けて、私は言葉
に対して敏感になったなと思
います。はじめはほぼ未知の言語
のドイツ語で、何かを読むとき

も聞くときも、言葉の一つ一つ
真剣に観察するように向き合
わないといけないという時期が
最初の半年ぐらいありました。
もちろん段々慣れてくれば、聞
き取りも読むのも楽になつてい
くのですが、それでも言葉の一
つ一つを受け止める作業とい
うのは、今までの私の体験になか
たと思います。そのようにしてド
イツ語と向かい続けた結果、言
葉の一つ一つに真剣に向き合
う習慣が自然に身につきました。
そして最近気づいたのが、そ
の習慣を母国語である日本語
でも自然に無意識に応用してい
るということです。例えば同じ
本を読んでも、なんでこの作
者はこの言葉を選んだのだろ
う、このフレーズを選んだのだろ
うという風に、言葉の一つ一つ
に真剣に向き合いながら読むの
で、同じ文章でも深く読めるよ
うになりました。これが最近見つ
けた二つの発見です。2つ目は、
当たり前といえば当たり前です
が、難しいと思われるものがた
くさんあるということ。す。
懐かしいと思うこともたくさん
あり、身近に感じていることも
たくさんあることです。しかも
それはドイツだけではなく、
色々な場所にあります。そう
やって身近に思うものがたくさ
んあるということは、身の回り

起こっていることたくさんの出
来事を自分のこととして受け止
めることができるようになったと
いうことだと思います。今までは
見向きもしていなかったような
ニュースでも、少し耳を傾けるこ
とができるようになったり、世界
の遠くで起こっていると思つて
いたことも、自分の問題として考
えられるようになりました。こ
れはドイツでの1年間がなければ
ば、持ちえなかった習慣だと思
います。
最後になりましたが、1年間の
素敵なドイツでの経験と派遣
候補生としての1年間の研修を
どうもありがとうございました。
ドイツでもホストクラブの方
がいて、そのクラブの様子を見
たり、他の色々な国のロータリー
クラブの様子を聞いたりしたこと
はあったのですが、派遣前の1年
間の研修をこんなにもしつかり
やつてくださるところは、本当に
2750地区だけだと思います。
この1年間がなければ、覚悟
をあまり持たずにドイツに行つ
てしまったと思います。派遣前
の1年の研修により、ドイツでの
1年間がとても充実したと思つ
ています。その派遣準備期間の
1年間と派遣の1年間、合わせ
て2年間、本当にお世話になり
ました。これからもロータリーを
通して、大きな貢献ができるよ
うに頑張りたいと思います。



十二月三祝

師走 (しわす)

誕生花 カトレア
ストレチア

会員誕生祝

大田 吉彦 83回

森 明 81回

田辺隆一郎 78回

檜崎 博 74回

淵上 安 64回

笠井 豊 55回

高橋 光康 50回

平沼 北斗 49回

会員令夫人誕生祝

竹松 悦子様

城所 敬子様

羽田 珠江様

山田 美代様

柿田和加子様

伊藤 彩子様

池田あゆみ様

笠井 和美様

立花 章子様

山本 淳子様

船江 綾子様

結婚記念祝

船江 栄次 28回

八木 和祥 24回

的田 健司 18回

青木 清治 5回

小林 秀司 4回

(順不同 会員敬称略)

例会報告

第2534回 ● 2018・12・7 (金)

- ◇司会 倉田 正会場監督
 ◇開会点鐘 峰尾 孚会長
 ◇君が代斉唱
 ◇Rソング 奉仕の理想
 ◇お客様のご紹介 峰尾会長
 森田夏奈様、
 森田 彰様、
 森田美和子様
 ◇食事と交歓 中華
 ◇出席報告・ニコニコ発表
 渚上安出席財務副委員長
 会員113名中80名出席。
 出席率76・92%。前々回11月
 16日の出席率72・12%を84・
 62%をに修正します。
 ◇会長挨拶 峰尾 孚会長
 ＊早いもので、7月に会長を拝
 命してから5か月が経ちまし
 た。
 ＊本日は交換学生の森田夏奈
 さんをご両親とご一緒にい
 らっしゃいました。
 ＊海外からも交換学生が派遣
 されてきますが、日本のよう
 に派遣の準備をしつかりして
 いる所は珍しいようです。
 ＊ドイツでの358日間について
 の卓話を楽しみにしております。
 ◇幹事報告 小沢孝志幹事
 ＊サイパンの台風被害へ一人当
 たり千円の義捐金を送るこ
 とが理事会で決まりました。
 ＊12／11・12に読書感想画コン

クールの絵が八王子駅南口の
 総合事務所4階で展示され
 ます。
 ＊来週12／14の例会のロータ
 リー控室は3階の「アイリス」
 です。

◇三祝

会員誕生祝 檜崎博・森明・
 田辺隆一郎・高橋光康・平
 沼北斗・笠井豊・大田吉彦・
 渚上安 (順不同・会員敬称略)
 会員令夫人誕生祝
 竹松悦子様・城所敬子様・
 羽田珠江様・山田美代様・
 榊田和加子様・伊藤彩子様・
 池田あゆみ様・笠井和美様・
 立花章子様・山本淳子様・
 船江綾子様
 結婚記念祝 的田健司・船
 江栄次・八木知祥・青木清
 治・小林秀司
 (順不同・会員敬称略)

◇スピーカー紹介

田村肇新世代委員長
 スピーカー・・・青少年交換派
 遣帰国生 森田夏奈氏
 テーマ・・・ドイツでの358
 日間とこれから
 ◇バナー拝受
 1800地区ゴスラーノー
 トハーズRCより

◇閉会点鐘 峰尾 孚会長

年次総会

◇次年度理事・役員承認について
 満場一致で承認

ニコニコボックス

● 2018・11・30 (金)

- ◇峰尾会長・船江会員の卓話
 宜しく願ひ致します。
 ◇小沢幹事・船江会員 卓話
 よろしく願ひします。
 ◆立花・第2回親睦ゴルフに
 て優勝させて頂きました。
 ありがとうございました。
 ◆船江・卓話をさせて頂いた
 きます。
 ◇檜崎・船江会員の卓話楽し
 みです。
 ◆大石和春・結婚記念日の花
 有難うございます。
 ◆西川・妻の誕生祝を頂きま
 したので。
 ◆金子・船江さんの卓話楽し
 みにしています。
 ◇関・結婚記念日のお花を頂
 きましたので。
 ◆秋間正好・お誕生日のお祝
 いありがとうございました。
 ◆松島・誕生日月なので。
 ◇三村・銀婚式のお花を頂き
 ました。
 ● 2018・12・7 (金)
 ◇峰尾会長・交換学生森田さ
 ん、ドイツより帰国、一年間
 の留学、本日の卓話宜しく
 お願い致します。
 ◇小沢幹事・森田夏奈さん、
 卓話よろしく願ひします。
 ◆藤巻・久しぶりに参加させ
 ていただきました。



- ◇竹松・家内の誕生祝ありが
 とうございました。皆様の
 お陰で87歳になりました。
 ◇田辺・誕生祝いをいただき
 ます。
 ◇檜崎・本日誕生祝いをいた
 だきますので。
 ◇森・誕生祝いをいただきあ
 りがとうございます。
 ◇大田・三祝ありがとうござ
 います。
 ◇高橋・誕生祝いをいただき
 ます。
 ◇青木・今月、結婚祝をいた
 だきます。ありがとうござ
 います。
 ◇田村・森田さん本日は卓話
 がんばって下さい。
 ◇平沼・誕生祝いをいただきま
 す。
 ◇笠井・誕生日のお祝いあり
 がとうございます。
 ◇渚上・誕生祝いに有難うござ
 います。
 ◇小林秀司・結婚記念の祝い
 をいただきました。ありが
 とうございました。
 (順不同・会員敬称略)

東京八王子西ロータリークラブ

〒192-0083 東京都八王子市旭町 14 番 1 号 京王プラザホテル八王子 8F

TEL.042-649-3751 FAX.042-649-3753

<http://www.hachioji-west-rc.org>

会長 峰尾 孚 幹事 小沢 孝志 広報委員会 原 巖 青木清治 平野智彦 土岐静雄 大田吉彦 浅川立憲 小林孝行